

愛知県「西尾市資料館」と「吉良氏」

2024-12-14 17:00:11

今日 12 月 14 日は「赤穂浪士吉良邸討ち入りの日」

今年 9 月に愛知県西尾市に行ってきました

信州伊那からバスで名古屋へ

途中、最近揚げ皮串で有名な「新時代」の看板



名古屋駅構内のきしめん屋

メニュー



きつねきしめん

たまたに食べたくなる

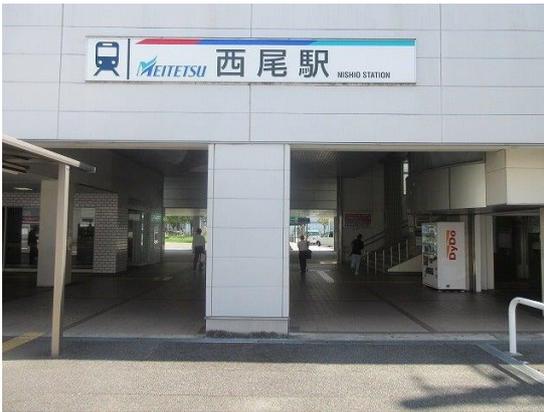
天むす



名鉄の吉良吉田行に乗り「西尾駅へ」
名古屋からは急行で1時間ほど



西尾駅



駅前のホテルにチェックイン
西尾城下町 歴史小径



早速西尾城へ



櫓

今回は吉良氏の研究であるためさっと見学し資料館へ



案内

天守閣跡



西尾市資料館



館内

西尾城ジオラマ

いろいろ展示してあったが、今回は吉良氏、今川氏、一色氏に絞って見た



西尾城の歴史

「承久の乱(1221年)」「後鳥羽上皇」と鎌倉幕府「北条義時」の対立抗争
その功績で「足利義氏」が三河の守護となる

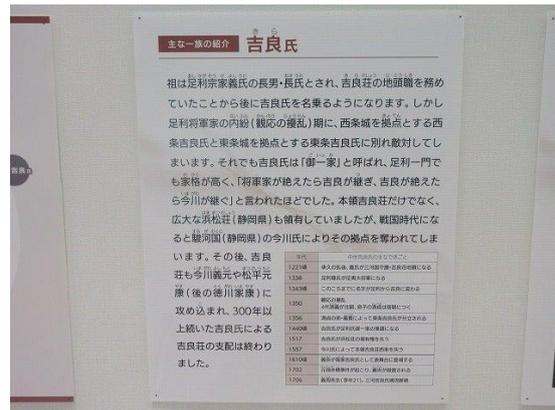
「応仁の乱(1467年～1477年)」

足利将軍家の後継者問題で、「細川勝元」と「山名宗全」との大名抗争

「今川義元」が吉良荘に侵攻する

「桶狭間の戦い」で今川義元が戦死

西尾城の城主



足利一門家計

「吉良氏」

祖は「足利宗家義氏」の長男「長氏」とされ、吉良荘の地頭職を務めていたことから「吉良氏」を名乗るようになった

吉良氏は「御一家」と呼ばれ、足利一門でも家格が高く、
 「将軍家が絶えたら吉良が継ぎ、吉良が絶えたら今川が継ぐ」と言われたほど
 戦国時代になると吉良荘も今川義元、松平元康(徳川家康)に攻
 め込まれ 300 年に及ぶ吉良氏の支配が終わる

高家吉良氏

一度没落した吉良氏であったが、「西城吉良氏」の末裔である「吉良義定」が「徳川家康」と縁戚関係にあったことから、江戸幕府によって再興された
 京都の公家とつながりがあったことから、高家(朝廷への使者、待遇役)として幕府で徴用された
 吉良氏は現在の吉良町の一部を領有しており、「上野介義央(こうずのすけよしひさ)」は、黄金堤や富好神殿を開拓し領民を大切にした
 「赤穂浪士討ち入り事件」により殺害されると、吉良氏は吉良の支配を失い嫡流も断絶



「今川氏」

戦国大名として名をはせた「今川氏」も西尾を発祥とする一族
 祖は「足利(吉良)氏の子「国氏」」で、今川荘(今川町)を領したことから「今川氏」を名乗った
 義元の代には東海道一の戦国大名として繁栄した
 義元が「織田信長」に「桶狭間の戦い」で討たれると勢力は著しく衰えた
 しかし、江戸時代には高家旗本として存続した

「一色氏」

祖は「足利宗家秦氏」の子「公深」と言われ、吉良荘一色を治めたことから「一色氏」を名乗った
 6代将軍「足利義教(よしのり)」に反逆し、嫡流は討伐され衰退

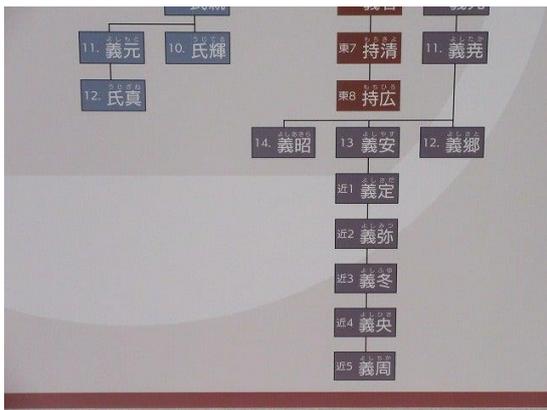


足利一門の系図

家系図によると

「今川氏」は「義元」の子「氏真(うじざね)」の代で絶えている

「吉良氏」は「義央(上野介)」の子「義周(よしちか)」の代で絶えた



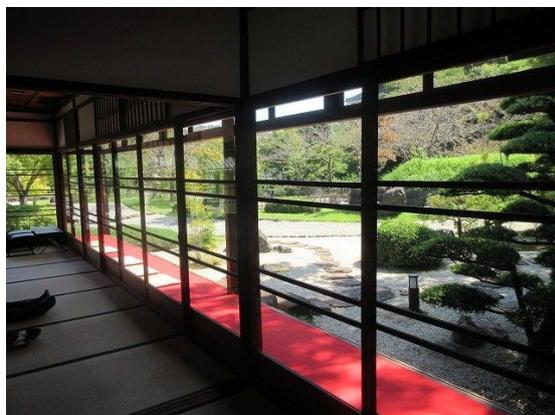
百日紅(さるすべり)の花が満開

資料館から見える櫓



旧近衛邸

ゆかりのない西尾市に移転されている



館内

茶室への道



近衛家は藤原氏の流れをくむ名家

皇室との係わりも深かった

天皇や皇室が座る席

畳縁(たたみべり)のデザインが違う



庭を見ながらお茶を一服



ももを形どった菓子か



「今川氏発祥地」



足利長氏は吉良荘を引きつだ
今川の地であったため「今川」と名乗るようになった



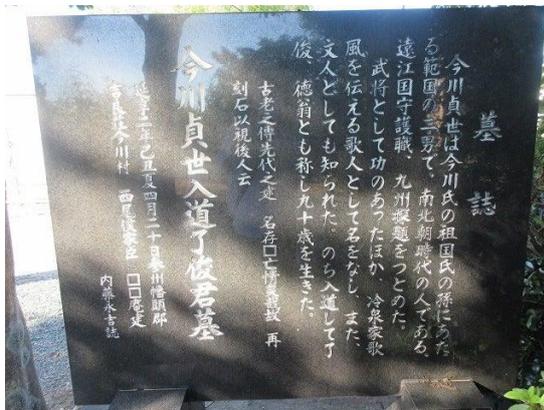
今川貞世入道了俊君墓

今でも生花が供えられている



墓誌

目の前は小学校



「吉良綱憲(つなりの)」の運命

山形県米沢市「上杉神社」

上杉神社御由来緒



宝物殿

宝物殿隣にこんな石板がある

吉良上野介の嫡男綱憲について書かれている

討ち入りの日には綱憲は上杉の屋敷にいた

幕府から赤穂浪士に復讐することをきつく禁止されていた

子の義周(よしちか)は吉良邸にいて背中に大傷を負っていた



「吉良左衛門義周(よしちか)」の運命

諏訪大社が神仏合祀の「蓮花寺」

長野県諏訪市

諏訪大社上社の隣



この階段を登ると

吉良義周の墓



墓と慰霊塔

吉良義周に捧ぐ

上杉綱憲の第二子として生を受け、五歳にして吉良上野介の後継ぎとして吉良家の人となる
義周に突然不幸が襲った

「元禄事件」である

世論に圧せられ、いわれのなき無念の罪を背負い、配流された先でつぎつぎに肉親の死を知り、
若き命を終えた

公よ、あなたは元禄事件の最大の被害者であった

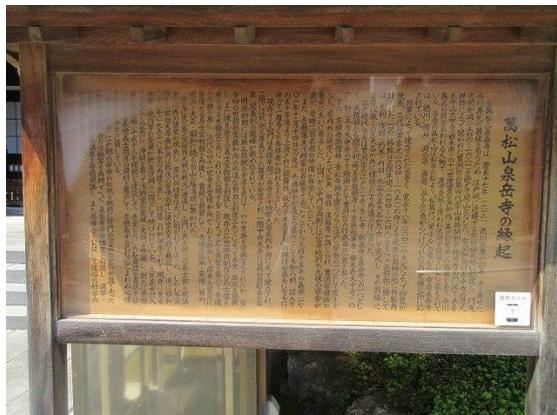
吉良町



人丸

泉岳寺

東京都港区高輪



萬松山泉岳寺の縁起

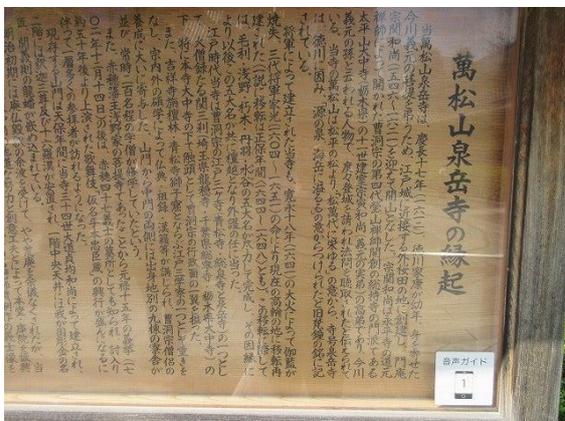
泉岳寺は、1612年、「徳川家康」が幼年身を寄せた「今川義元(吉良氏の分家)」の菩提を弔うため創建した寺

浅野氏の菩提寺でもあったため「浅野内匠頭の墓」もここにあった

赤穂浪士は「浅野内匠頭」の墓に「吉良上野介」の首を供えた

赤穂浪士は家康の思いを分かっていたのか？

綱吉はどう思ったのか？



次回も西尾市周辺を探索します

吉良氏の菩提寺「華蔵寺」と「吉良仁吉の墓」

2024-12-17 17:00:21

西尾駅から電車で上横須賀駅へ

吉良家の菩提寺「華蔵寺(けぞうじ)」に向かう



路線図

上横須賀駅で下車

歩ける距離ではないのでタクシーを呼ぶ



華蔵寺に到着

華蔵寺(けぞうじ)



1600年に「吉良義安(1536年～1569年)」を開基に再興した吉良家の菩提寺
吉良上野介義央が寄贈した文化財を所有
50歳の姿を刻んだ「木像」は県指定文化財である
急な階段



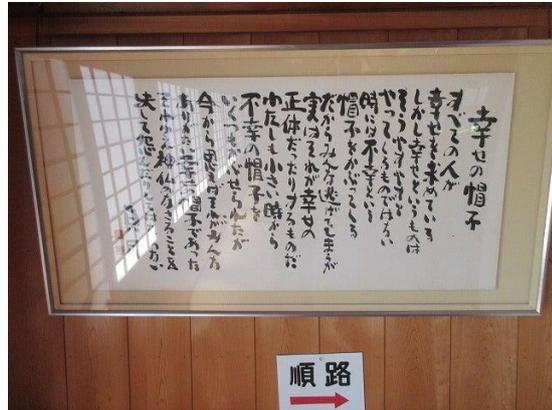
「行春(ゆくはる)や 憎まれながら 三百年」 鬼城 西尾市教育委員会
これが吉良町の思いだ
入口はあまり派手ではないが、中は豪華



吉良氏の家紋 五三桐
ユニークなだるまの絵



境内
御本尊

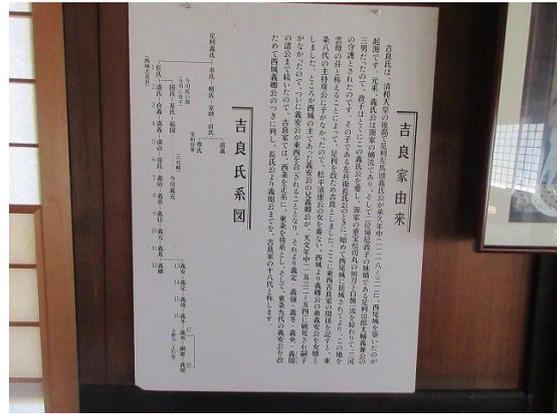


幸せの帽子
不幸の帽子とし幸せの帽子
赤馬



吉良の赤馬
義央公が吉良の地に訪れた折、農耕に使う赤毛の駄馬にまたがり領内を巡検したと伝えられて
いる
「吉良の赤馬」は義央公の飾り気のない人柄を慕って、郷土玩具として現在まで作り続けられてい
る

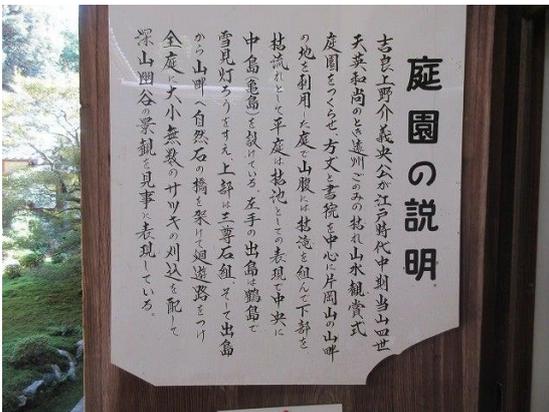
義央公 50 歳の木像
義央自身が色を塗ったと言われている
これは見るができない



吉良家の由来

庭園の説明

山水観賞式庭園



だるまの襖絵

ここで女性の観光ガイドさんと会いお話をさせていただく

だるまの襖絵

ここで女性の観光ガイドさんと会いお話をさせていただく

信州伊那(義周の墓の近く)から来た縁で話が弾む

鐘楼



階段の下を見ると

ガイドさんが担当するお客さんぞくぞく登場

高齢者の団体であった

ガイドさんは皆を集め私を紹介してくれ挨拶した



吉良家墓所

吉良家墓所の墓案内図

ここは吉良家5代の墓がある



吉良上野介義央の墓

最後の藩主「吉良義周(よしちか)」の墓
 前に紹介した諏訪高島藩預かりとなり諏訪で亡くなった
 諏訪大社神宮隣の「法華寺」の裏に墓がある



義周公墓
 吉良氏家臣の慰霊塔



これは「織部燈籠」、キリシタン灯籠とも言われている

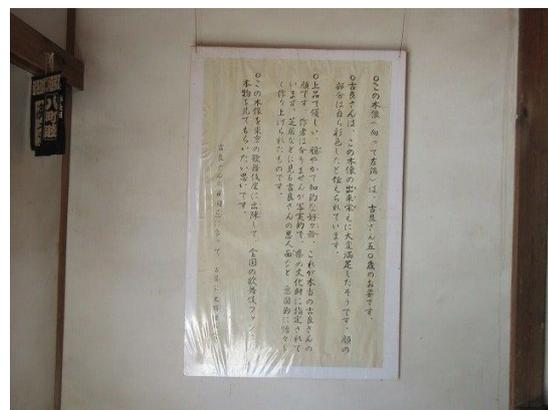


アーチ状の中の人物像はマリア様と言われている

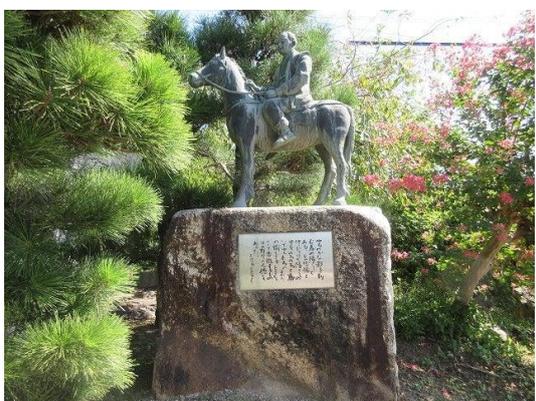
上の模様は「梵字」という人もいるがキリシタン灯籠であるため関係ない
共通しているのは右下の○か□の模様がある
木像が納められている建物



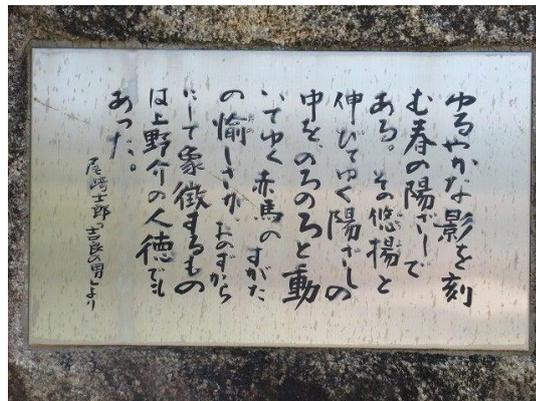
幸運にも扉が開いている
住職のご配慮だ 外から写真を撮らせていただいた
一番左が義央公の木像
写真も撮れるが深追いはしない
ツアーの方々との出会いがなければ見る事ができなかった



吉良上野介像



赤馬に乗る義央公



尾崎士郎「吉良の男」より

華蔵寺を後にして「吉良仁吉の墓」がある「源徳寺」へ
吉良仁吉を知っている人はもう少ない



新横須賀駅から歩くことができる
本堂



寺紋

「義理と人情」吉良町



吉良仁吉の墓

今も花が供えられている



任侠吉良仁吉の墓

吉良仁吉(きらのにきち 1839年～1866年)「清水次郎長」の兄弟分として幕末に活躍した侠客

「侠客」とは「強きを挫き、弱きを助ける事を旨とした任侠を建前にした渡世人」

侠客同士の闘争に巻き込まれ鉄砲で撃たれたうえに斬られて死亡

享年 28 歳

「菊は栄えて 葵は枯れる」(伊那勘太郎月夜歌)

徳川幕府が倒れ天皇の時代へ

武士は刀を鍬やそろばんに持ち替えたが

職を持たない元武士は「無宿渡世人」となった

この歌は村田英雄「人生劇場」2 番の歌詞



人生劇場 / 村田英雄
Showa Kayo · 17万 回視聴 · 3 年前

昭和 34 年に大ヒット

34 年(1959 年)は現在の上皇殿下のご成婚の年

戦後の高度成長の頃

興味のある方は

人生劇場 / 村田英雄 人生劇場(昭和 13 年・楠木 繁夫) 作詞:佐藤 惣之助 作曲:古賀 政男



西尾のホテルに荷物を預けてあったのでホテルに戻る

近くの「とんかつ錦」で昼食



メニュー

ヒレカツ御膳



丁度いい量のヒレカツ
柔らかくておいしい
お刺身



南蛮漬け
冷菜



コーヒー

ご馳走様でした

途中のポスト



こんな花が満開

西尾駅から吉良吉田方面へ

電車を待つ間に不思議なことが起きる

駅のホームで電車を待っていると、汗だくの老婆が近づき私に話しかけてきた
病院からの帰りらしい

電車に乗りシートに座っているとわざわざ私の隣に座ってくる

「私は信州から来て、華蔵寺で吉良のお墓にお参りに参りました」というと

「私は赤穂の大石神社も諏訪の法華寺にも行ったことがある」と話してくれた

これも何かの縁だ

電車を降りるとどこかに行って姿は見えなくなった



電車とホームの間隔があるので注意

吉良吉田駅

1泊2日で帰ろうと思っていたが、西尾市資料館で「竜宮ホテル」のスタッフと偶然会う

パンフレットを取りに来たようだ
ここでも話が弾みもう一泊することにした



名古屋からのマダムと3人で送迎車でホテル竜宮に向かう
三河湾案内図



部屋
テラスから景色 たまには観光ホテルもいい



遠くに見えるのは知多半島

翌日は「塩の史料館」と「道の駅」を紹介します